

セアカゴケグモに注意

セアカゴケグモは外来種で、日本では1995年に大阪府高石市で侵入が確認されました。強い毒を持つクモが外国から侵入したということで、当時は大々的に報道されました。

セアカゴケグモは、日当たりが良い場所の、側溝のふたの裏側、花壇、植木鉢、墓石の隙間、公衆便所などに多く住んでいます。同じような場所にいるマダラヒメグモ、オオヒメグモ、クロガケジグモなどと間違われることがあります。腹部の背中側に鮮やかな赤い紋があるので他のクモと容易に見分けられます。現在、大阪府など西日本を中心に宮城県から九州・沖縄まで24都府県に目撃例が広がり、個体数も増加しています。



セアカゴケグモ雌（未成熟なもの：腹に白い帯がある）と卵のう



マダラヒメグモ（左）とオオヒメグモ（右）

これまでに咬まれたという報告は、国内で約70例、大阪市でも数例の報告があり、2006年頃から急増しています。屋外での園芸作業、清掃のときに咬まれることが多く、履物にクモがついていて咬まれるケースも目立ちます。咬傷被害は夏と秋に集中していますが、冬季に自動販売機の取り出し口で咬まれた例もあり、冬でも暖かいところは要注意です。

セアカゴケグモに咬まれた場合、ときに強い痛みとしびれがありますが、ふつうは1～2日で回復します。過去にはオーストラリアでの死亡例がありますが、抗毒素血清を使用するようになってから死者は報告されていません。もしも咬まれたときは、患部を水洗いし病院へ行くことが勧められています。アレルギー体質の人は、アナフィラキシーショックを起こすなど重症化し易いので注意が必要です。

セアカゴケグモは完全に大阪に定着してしまい、根絶することはほぼ不可能になってしまいました。屋外での作業時や遊ぶ際には、このクモの危険性に注意を払い、咬まれないようにすることが重要です。身近で発見したときには、家庭用のエアゾール殺虫剤で殺すのが安全でしょう。セアカゴケグモの例は、外来生物の侵入がときに危険で取り返しのつかない事態になることを示しています。このため、研究所では外来生物の生態や防除の研究を積極的に行なっています。

セアカゴケグモについて詳しく知りたい方は、「毒グモ騒動の真実」（全国農村教育協会）と以下の大阪市健康局作成のHPをご参照ください。

<http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000006328.html>